

2020 年度ゼミ (3003 演習 2A/3004 演習 2B) 要覧

担当者名	平山恵
演習テーマ	健康自立と平和な社会づくり
校外実習	①、実施しない 2、実施 (実施時期: 年 月)
メール・アドレス	megumix@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	木曜昼休み (要予約)
2021 年度に開講 しない可能性 (在外研究・特別研究)	あり。
授業概要	<p>戦争、環境破壊、飢え、難民、いじめ、自殺。どのようにしたら 皆が苦しまず生きることができる平和な社会をつくることができるのか。自分たちの生きている世界を分析し、我々一人一人がどうすれば、人を踏みつけずに生きて行けるのかを探る。</p> <p>ゼミは別名「転原バンド」で、社会を少しでも良くしていくために考え、協働する人々の意である。ネットワークではなくて「バンド」である。ネットワークはゆるやかなつながりであるが、バンドは一緒に行動を起こす同志である。人間がよりよく生きていくために、まずは自分の健康、そして周りの人の健康、更には同じ地球の上で生きる人々や動物の健康を守るためにどのようなことが必要かを考える。深く考える為の文献を日本語と英語で読み進めながら ゼミ生やゲストと議論する。日本では健康と言うと「医療」と結びついてしまい、医療関係者に自分の命や健康を医療者にあずけてしまう傾向がある。つまり、健康自立度合いが低い。この裏には世界規模の経済活動や社会変容が関連している。このメカニズムを理解するために、文献輪読だけでなく、日常生活の中から自分自身で確認する観察作業、ミニ調査を行う等、ゼミ生が証明していくことをめざす。身近で具体的なものから調査し、1 年後には、訪れたことのない場所に生きる人々の問題にどのようにして関わるかも考えられるようになって欲しい。</p>
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界で起きている問題と自分との関係を分析することができる。 2. 調査の基本 (知識、技術、態度) を習得する。 3. 他の学生と 協働 調査研究ができる。

授業計画	<p>【春学期】テーマに即した文献の輪読を行う。</p> <p>【夏休み】各ゼミ生は卒論テーマと分析に使うツールを夏休み中に考え、秋学期の輪読文献をゼミ生と担当教員で相談して決める。</p> <p>【秋学期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 夏休みに選んだ文献の輪読を行う。 2) 卒論構想案を発表し、検討する。
予習	課題文献を読んでレジメにする。秋学期は課題文献に加えて各自の卒論構想案を作成する。
復習	輪読で出てきた新しい概念や用語を整理する。英単語は文章を作り覚える。
授業に関する注意事項	基本的に全回出席が求められている。やむを得ず欠席する場合は担当教員に連絡するだけでなくゼミ生全員に周知し、司会、書記の担当がある場合は他のゼミ生に代わってもらう手はずをとること。
教科書	1冊目は David P. Barash 著 Approaches to Peace: A Reader in Peace Studies(2017)Oxford Univ. Press。以降はゼミ生と相談して決定する。
参考書	重田康博ほか編『SDG s 時代のグローバル開発協力論：開発援助・パートナーシップの再考』2019（明石書店）
成績評価の基準	輪読文献の報告、議事録、プレゼンテーション 35 %、他のゼミ生の発表へのコメントや提案などの発言や自発的な学習活動 35 %、レポート 30 %。無段欠席した場合は単位を認めない。
関連 URL	特になし
備考	<p>ゼミ転入を希望する場合は、まず、国際学部事務室から「転原バンドゼミ方針」を12月20日までに取り寄せる。それを読んでもこのゼミに転入したいと考えた者は、以下の内容で2000字程度を書いて国際学部事務室に提出する。</p> <p>「演習1やこれまでの学びで得たもの」「これからこのゼミで何をしたいのか」</p> <p>締め切り：1月7日（火曜）17時</p> <p>場合によっては面談を行う場合もある。</p>